

藤井浩人TIMES

— 未来への挑戦 — Vol.5



2020年、本年も宜しくお願い致します。昨年は、全国的に災害の多い季節となりました。政府、国会の近くで情報に触れていると、災害は、本当にある日突然、私たちの命と生活を危機に陥れ、それが全国のどこかで毎年起きてしまっていることを痛感します。美濃加茂市においては、新丸山ダムの建設はじめ、市政、県政、政府が協力し、懸命な対策に取り組んでいますが、いざという時には、一人ひとりの日頃の備えが何より大切です。安心安全を人に任せることなく、一人ひとりができることに向き合い続けていくことが必要だと思います。

現在、新型コロナウイルスへの対応が喫緊の課題となっています。感染拡大防止や経済活動への損失補填等、行政が行うべきことは多々ありますが、まずは、お一人おひとりが身を守る術を徹底していただきたいと思います。

藤井浩人の主な活動

市長を辞職して2年が経ちました。多くの人から「最近はどのような生活をしているのか?」とご質問をいただくことがあります。今回は、私の普段の生活について、少しご紹介させていただきます。

私は現在、夜行バスで毎週東京と美濃加茂を往復し、平日の3、4日を東京、残りを美濃加茂市で活動しています。東京では慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科においてリサーチャー(研究員)として、主に情報発信やインターネットが発達する中での社会変化について研究をしています。具体的には、インターネットが普及し、若い世代をはじめとした多くの人々が新聞やテレビを離れ、パソコンやスマートフォンを利用して情報を手に入れる時代において、最適な方法で、伝えたい情報を伝えたい人に届けることが重要となっています。また、5Gをはじめ膨大な情報量を瞬時に伝達できる世の中で、それらの恩恵を私たちの街や生活にどのように取り入れることができるのかを研究しています。時代の変化についていくのは大変ですが、この流れが止まることはありません。変えてはいけないものを守りながら、これからの時代と向き合い、優れた技術を理解した上で、美濃加茂市をはじめ私たちの地域に相応しい未来を創っていくことが必要だと日々感じています。

4月から、私を慶應大学に招聘した中村伊知哉教授が学長を務める「情報経営イノベーション専門職大学」の客員教授も務めることとなりました。少子化の中、新たな学校開校は厳しいと言われる時代ですが、日本において圧倒的に人材が足りないと言わ



ている「情報分野」のスペシャリストを育てる専門職大学です。ICT産業、メディア、コンテンツ、教育、金融、製造など幅広い分野の企業200社近くが、協力、連携に手を挙げるなど、注目の学校となっています。ここでの研究や人材育成に関わることで、今後の産業界の変化や未来へ羽ばたく子どもたちへの教育について考えを深めていきたいと思っています。

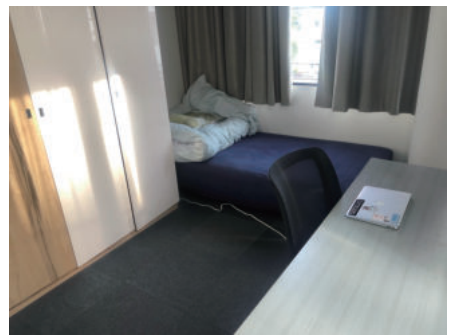


また、東京の衆議院議員金子俊平事務所では、週3日程私設秘書として議員会館に在籍させていただいています。国会内での委員会や、与野党を超えた勉強会、自党内での予算や法律、制度についての会議に出席し、政府の事業が進んでいく流れや、与党内での議論、政治家と各省庁とのやりとりを間近で見ると、貴重な機会に立ち合わせていただいています。そのよう

な環境下で私のこれまでの経験や、地元での皆さんからの御声を金子議員と共有することはもちろんのこと、伊藤市長はじめ各市町村長、議員、役所の職員さんと情報共有や意見交換をさせていただいたりしています。時には、地元から国会見学に訪れた市民の皆さんをご案内しながら、色々なお話をさせていただいたりしています。是非、お越しください！



私生活では、妻と息子を岐阜に残して上京しているため、東京での生活拠点は職場や大学からは少し離れますが、お年寄りの聖地と言われる「巣鴨」の、シェアハウスに住んでいます。シェアハウスは寮のようなもので、お風呂やキッチン、洗濯機は共同利用でアパートを借りるよりは値打ちに、かつ、外国人をはじめ全



国から集まるビジネスマンと交流する機会をいただいています。ここから満員電車に乗って議員会館や大学の方へと向かいます。そして毎週、新宿駅からぎふ清流里山公園行きの岐阜バス：パピヨン号という夜行バスに乗車しています。新幹線に比べ料金も半額近いパピヨン号には大変助けられています。このバス路線は、当時の渡辺直由市長が粘り強い交渉によって実現したバス路線です。利用者が比較的少ないと聞いていますので、市民の皆様にはもっと利用していただけたらと思います。

2019年12月27日で執行猶予3年間が残り1年となりました。多くの方に激励、ご支援いただき、今日を迎えることができている。ただ、「執行猶予」の4文字が頭から離れることはひと時もなく、その悔しさを忘れられることもありませんでした。まずは、執行猶予が終える残り一年もしっかりと努力を重ね、その先に、皆さんへしっかりと恩返しができるよう精進していきたいと思えます。

投票率が高い台湾で総統選挙を視察

1月11日に台湾で行われた台湾の元首を決める、総統選挙を間近で視察して来ました。期日前投票などが無く、日本よりも厳しい条件の中で、台湾の投票率は7割を超えています。若者の投票率や政治への関心も非常に高く、ここ数年ずっと注目しており、今回、現地の大学関係者の協力のもと、短期間でしたが赴くことができました。(執行猶予期間中は、海外渡航に制限があるため、渡航目的やスケジュールを提出し、渡航が認められました。)

今回の結果も投票率は74.9%(我が国：2017年衆議院議員選挙53.7%)。20代、30代の若者の投票率も70%を超え、日本に比べ非常に高い数値となりました。(2017年衆議院議員選挙：20代は34%、30代は45%)。投票日と選挙活動終盤の数日間、台湾政治大学や各政党集会、若者の集まる場所などを訪れました。台湾の選挙制度では街の中に候補者の大きな看板が掲げられているなど、日本とは選挙のルールが





少し異なることはありますが、何より、選挙期間中の候補者による演説会の盛り上がりは、あたかもスポーツ観戦に来ているかのような雰囲気でした。政党によって集まっている人の年齢は少し異なりましたが、それでもどの陣営も老若男女、そして子どもや学生も集会場に集い、何時間も政治家の話しに耳を傾け、大

歓声で会場を盛り上げるなど、日本では見られない光景がありました。現地の若い人と話をすると「スポーツやイベントも楽しいけど私たちの生活には繋がらない。でも選挙は、自分たちの将来を決める。参加して当然だ。」と言っていたことが印象的でした。一票を投じるために、海外から高い飛行機代を払って帰ることも当たり前で、そのような若者の政治参加を生み出す国の力強さに美しさすら感じました。

日本では若者の政治離れに歯止めが効きません。投票率や政治の関心度が低いのは、若者の責任ではなく、これまで世の中を牽引し、社会や制度を担ってきた大人たちの責任です。こんなにも近くで、世代を超え、自分たちの未来を真剣に考え、行動している現実から学ぶことは多くあります。

私自身、政治に関わることができる立場を活かし、皆さんと意見交換をしながら、若者をはじめ、より多くの方が地域や社会に関心を持てるような仕組みづくりを考え、実現していきたいと思います。

私が参加している勉強会「龍馬プロジェクト」から本が出ます。私も数ページ寄稿しています。最寄りの書店ではお取り扱いがないかもしれないので、お買い求めいただける場合は事務所にご連絡いただけますと幸いです。

藤井浩人同志会より御礼

いつも藤井浩人及び同志会の活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。いただいた献金は藤井TIMES発行や、政治活動の資金として大切にご活用させていただきます。引き続き個人献金は募集しておりますので、藤井浩人の政治活動にご理解、ご賛同いただける方はよろしく願います。

【お振込み先】 大垣共立銀行 美濃加茂支店 普通992000 藤井浩人同志会 代表者 藤井浩人

現在の政治資金規正法では、藤井浩人同志会が企業・団体献金を受けることは禁止されております。また、政治家個人への寄附は認められていないため、藤井浩人同志会(政治団体)が、皆様から頂戴した献金をもとに藤井浩人を支援致します。そのため、ご寄付いただいた際には、お礼と領収書の発行などがございますので、藤井浩人のホームページよりご連絡いただくか、下記メールまでご連絡下さい。

【メール】 fujii.doshikai@gmail.com 【藤井浩人同志会事務局】 渡辺 090-7671-4252

藤井浩人同志会へ入会いただける方、「藤井浩人TIMES」配布ご希望の方、ご献金いただける方は裏面のEメールアドレスへご連絡下さい。